

コンフィグレーション/ トラブルシューティング・ガイド

HP Kayak XW シリーズ 0480 PC ワークステーション

HP VISUALIZE fx6



オンライン・ガイドの使い方



ツールバーの[戻る]ボタンをクリックすると、直前に表示していたページに戻ります。



ツールバーの[次ページ]ボタンをクリックすると、次のページに進みます。



ツールバーの[前ページ]ボタンをクリックすると、1ページ前のページに戻ります。



ツールバーの[開始ページ]ボタンをクリックすると、本ガイドの最初のページが表示されます。

▼ □ オーディオ設定のテスト
□ Windows を実行してい
▶ □ サウンドに問題があるとき
▶ □ オーディオ機器の接続

ブックマーク名(画面左)をクリックすると、そのブックマークに対応するトピックを表示することができます。右矢印 ▶ をクリックすると、その下の階層にあるブックマークが現われます。下矢印 ▼ をクリックすると下位階層のブックマークが隠されます。

目次

オンライン・ガイドの使い方	2
ご注意	6
追加情報とヘルプ	7
安全性についての重要事項	7
概要	8
HP VISUALIZE fx6 ドライバ	9
HP VISUALIZE fx6 ドライバのアップデート	9
HP VISUALIZE fx6 ドライバの設定	11
About パネル	11
ドライバの基本設定	13
Options パネル	13
[ディスプレイの設定] パネル	14
ドライバの詳細設定	15
Options パネル	15
Administrator パネル	16
Gamma Correction パネル	17
ドライバのカスタム設定	17
[Save As] ボタン	17
[Delete] ボタン	17
ステレオ・ビジョン	18
HP VISUALIZE fx6 のアップグレード	19

トラブルシューティング	20
ビデオに関する問題のトラブルシューティング	20
診断ツール	22
パフォーマンス上の問題のトラブルシューティング	23

HP VISUALIZE fx6 グラフィックス・ボード

コンフィグレーション/ トラブルシューティング・ガイド

HP Kayak XW シリーズ 0480 PC ワークステーション

本マニュアルでは次の事項について説明します。

- HP VISUALIZE fx6 の設定
- HP VISUALIZE fx6 ドライバの更新
- テクスチャ・モジュール・アクセサリについて
- HP VISUALIZE fx6 グラフィックス・ボードの使用発生したハードウェアおよびパフォーマンス上の問題のトラブルシューティング

注記

本マニュアルに掲載されている情報は、HP Kayak XW シリーズ 0480 PC ワークステーションで HP VISUALIZE fx6 を使用することを前提として記載しています。HP UNIX ワークステーションで HP VISUALIZE fx6 をご使用になる場合は、本マニュアルの対象外となります。

ご注意

本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

本書に記載した内容は、特定の目的に対する商品性や適合性を保証するものではなく、当社はそれらに関して責任を負いません。また、本書の記載の誤り、あるいは本書の配布、内容、利用にともなって生じる偶発的、結果的損害に関して責任を負いません。

本書の内容は、著作権によって保護されています。本書の一部または全部を当社の書面による事前の許可なくして複写、転載、翻訳することは禁止されています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Hewlett-Packard France
38053 Grenoble Cedex 9
France

© 1998 日本ヒューレット・パカード株式会社
©1998 Hewlett-Packard Company

追加情報とヘルプ

本製品に使用可能なグラフィックス・ボードやアクセサリについての詳しい情報を入手するには、次のHP Webサイトの各ページにアクセスしてください。

HP Kayak PCワークステーションの製品仕様

- <http://www.hp.com/go/kayak>

HP Kayak PCワークステーションとHP VISUALIZE fx6のホワイト・ペーパー

- <http://www.hp.com/go/kayaklibrary>

最新ドライバ、FAQ、サポート情報

- <http://www.hp.com/go/kayaksupport>

安全性についての重要事項

はじめに、次の安全性に関する情報をお読みください。

注意

静電気によって、電子部品が損傷を受けることがあります。
静電防止リストストラップをお持ちの場合は、装着して作業を行ってください。
この作業中はすべての装置の電源を切り、衣服がアクセサリに触れないようにしてください。
また、アクセサリにはなるべく手を触れず、取り扱いに十分注意してください。

警告

安全のため、PCのカバーを取り外す前に必ずコンセントから電源コードを外し、通信ネットワークへの接続を外してください。また必ず、PC本体にカバーを取り付けてからPCのスイッチを入れてください。

VISUALIZE fx6 グラフィックス・ボードは使用中高温になります。ボードが完全に冷えるまで待ってから、作業を開始してください。

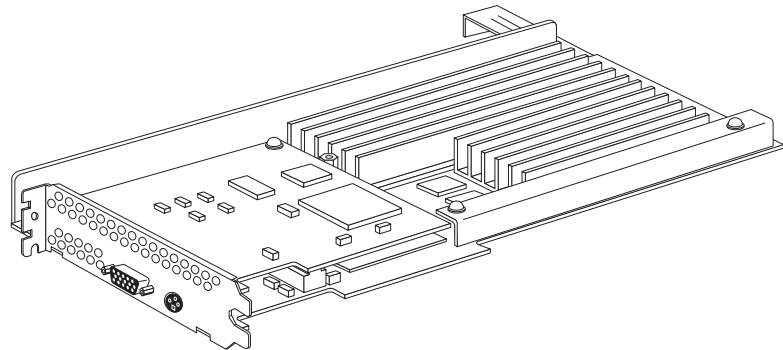
概要

HP VISUALIZE fx6 はハイエンドのOpenGL グラフィックス・ボードで、その最大の特長は、最新の3Dグラフィックス技術により実現したパフォーマンスの高さにあります。

この OpenGL グラフィックス・ボードを取り付けると、3D グラフィックのデザインや表示処理が高速に行われ、グラフィックスのクオリティを高めることができます。

HP VISUALIZE fx6 グラフィックス・サブシステムはPCワークステーションのアクセサリ・スロットを2基(PCI 1基とAGP 1基)使用します。本製品を取り付けることにより、次のような機能が得られます。

- PA-RISCテクノロジーに基づく専用浮動小数点プロセッサの使用による、ワールド・クラスのジオメトリ・エンジン
- 18 MB SGRAM ビデオ・メモリ
- OpenGL 1.1の全ハードウェア機能および拡張機能のサポート
- HP Color Recovery デザリング機能
- HP DirectModelの閉鎖選別機能による高速化
- ステレオ・ビジョンのサポート
- 32 MB SDRAMの専用テクスチャ・メモリ付ハードウェア・テクスチャ・アクセラレータ(オプション)



HP VISUALIZE fx6 ドライバ

HP VISUALIZE fx6 のドライバはPC ワークステーションの ハードディスクにプリロードされています。

ドライバを再インストールしたり、アップデートする場合は、HP Web サイトで最新バージョンを提供しています。詳しくは、次項の「HP VISUALIZE fx6 ドライバのアップデート」を参照してください。

インターネットに接続できない場合は、HP VISUALIZE fx6 ドライバのバックアップ・コピーがPC ワークステーションに付属の HP CD-ROM に収録されています。このドライバのバージョン番号はPC ワークステーションのハードディスクにプリロードされているドライバのバージョン番号とは一致しない場合があります。可能な場合は、HP Web サイトから最新バージョンのドライバを入手することをお勧めします。

HP VISUALIZE fx6 ドライバのアップデート

HP は新たな機能の組み込み、パフォーマンス強化、また、特定のアプリケーションの実行時に現われる問題の修正などのため、HP VISUALIZE fx6 ドライバのアップデートを頻繁に行います。

HP VISUALIZE fx6 ドライバの最新バージョンは、次の HP Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.hp.com/go/kayaksupport>

HP Kayak Support Web サイトにアクセスしたら、「HP Kayak XW シリーズ 0480 PC ワークステーション」を選択し、[OpenGL]の項へ進みます。

リストの中にご使用のアプリケーション用ドライバが含まれていれば、それをダウンロードします。例えば、Unigraphics アプリケーションを使用している場合は、Unigraphics certified ドライバを選択します。リストの中にご使用のアプリケーション用ドライバが含まれていない場合は、DEFAULT versionを選択してください。

注記

新しいドライバにはREADMEファイルがついています。このファイルにはドライバのインストール手順が記載されていますので、よくお読みください。また、READMEファイルに記載されている情報は、このマニュアルに記載されているどの情報よりも優先されます。

ドライバのアップデートは、次の手順で行います。

- 1 ハードディスクの任意の場所に一時的にフォルダを作り、そこにHP Webサイトからドライバをダウンロードします(例:C:\TEMP\fx6DRV\)
- 2 exe ファイルを実行して中に含まれているファイルを解凍します。解凍は、exe ファイルをダブルクリックすればできます。
- 3 ドライバに付属のREADME ファイルに記載されている手順に従って、インストールしてください。

HP VISUALIZE fx6 ドライバの設定

HP VISUALIZE fx6 ドライバの設定は[画面のプロパティ] ダイアログ・ボックスを使用して行います。

[画面のプロパティ] ダイアログ・ボックスを表示するには[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントして[コントロール パネル] をクリックします。[コントロール パネル] では[画面] をダブルクリックします。

HP VISUALIZE fx6 ドライバがインストールされていれば、[画面のプロパティ] ダイアログ・ボックスに次の4つのパネルが追加されているはずです。



About



Administrator




Gamma Correction



Options

項目についてのヘルプ

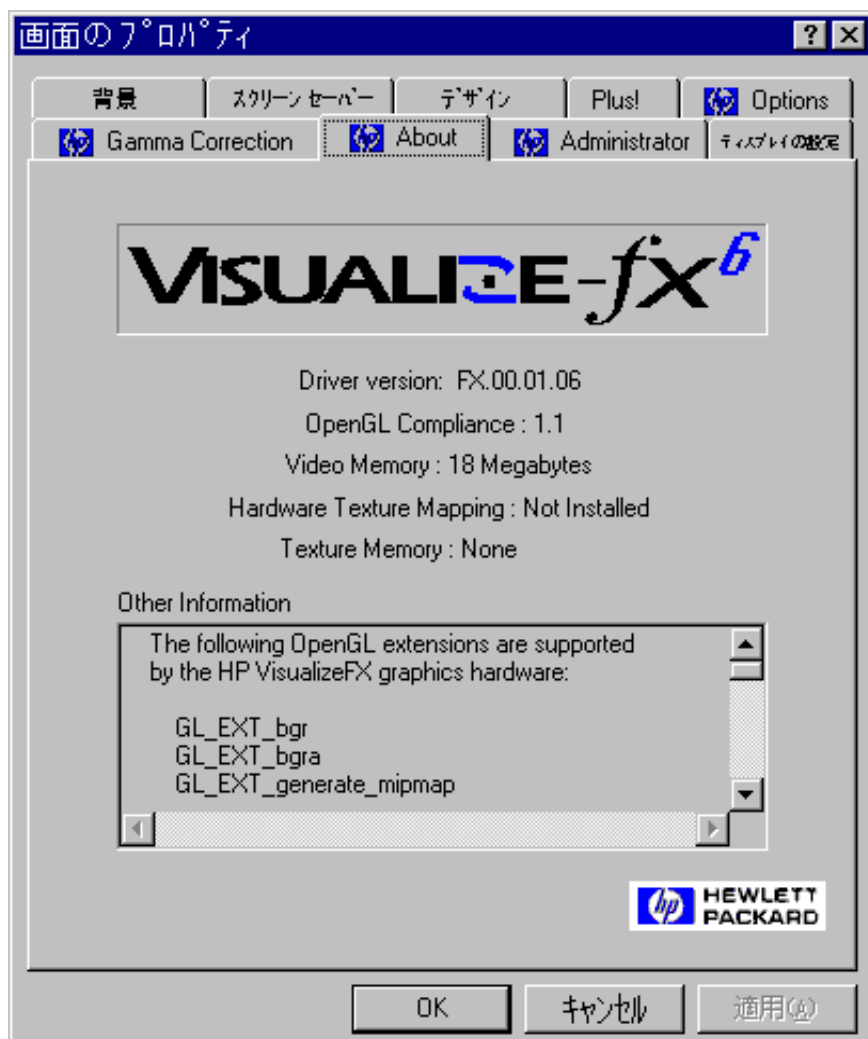
ダイアログ・ボックスの上部の  ボタンを押し、次に、説明が知りたいアイテムの上でクリックします。

表示されたポップアップ・ウィンドウを閉じるには、その内側でクリックします。



About パネル

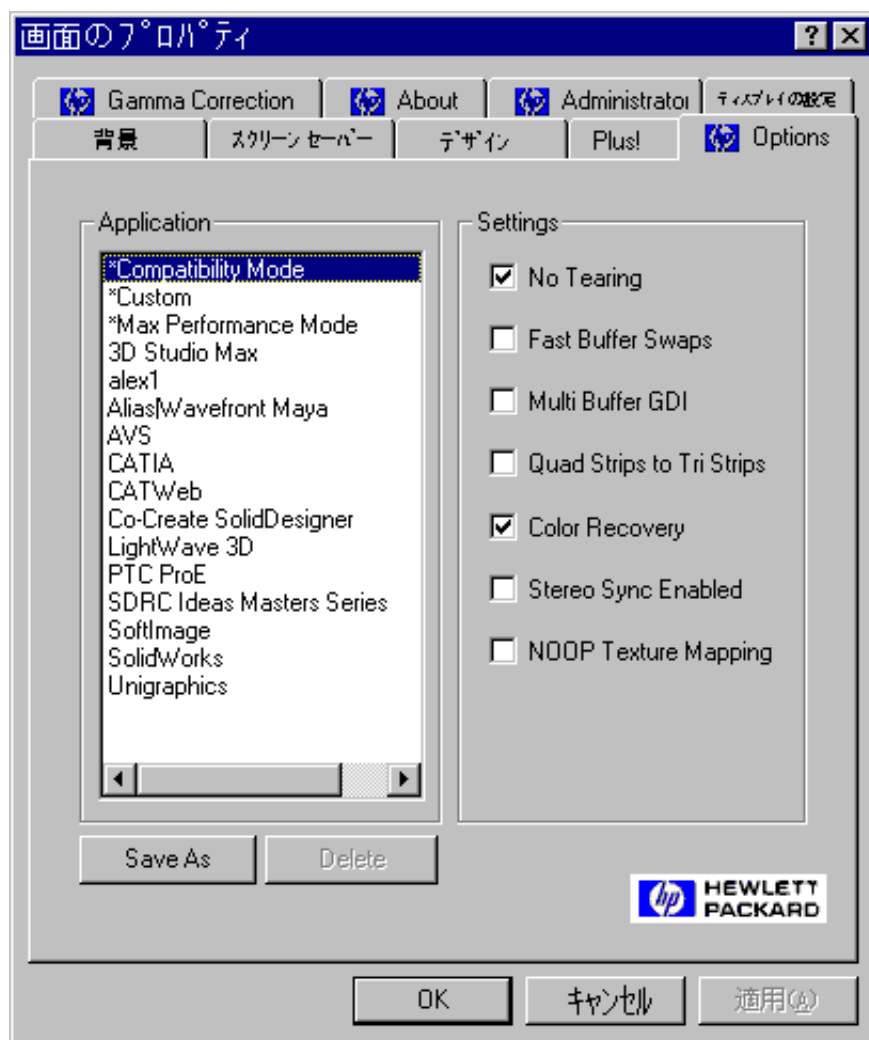
[About] パネルには、ドライバのバージョン、OpenGL のバージョンおよび拡張機能、テクスチャ・メモリ・モジュールの有無およびそのサイズなどの情報が表示されます。



上の図は HP VISUALIZE fx6 のドライバ・バージョンが FX.00.01.06 で、テクスチャ・モジュール・メモリがインストールされていない場合の [About] パネルです。

ドライバの基本設定

Options パネル



[Application] グループ・ボックスの中からアプリケーションの名前を選び、使用しているアプリケーション用ドライバを設定します。

ご使用のアプリケーション名がリストにない場合は、***Compatibility Mode**を選んでください。

[Settings] グループ・ボックスの中の項目は、変更する必要はありません。アプリケーションを選択した時点で、[Settings] グループ・ボックスの項目は選択したアプリケーションに合わせて自動的に設定されます。

[ディスプレイの設定] パネル

[**ディスプレイの設定**] パネルは画面の解像度、表示色数、リフレッシュ・レートを変更するのに使います。[**モードの一覧**] をクリックすると、HP VISUALIZE fx6 でサポートするカラーの組み合わせ、デスクトップ領域、リフレッシュ・レートがすべて表示されます。任意のモードを選択して[**テスト**] をクリックすると、選択したモードが使用しているディスプレイと互換性があるかどうかを確認することができます。

True Color のダブルバッファ・モードで表示できる画面の解像度は最大 1280 x 1024 ドットまでです。

解像度 1600 x 1200 ドットを使用する場合、シングルバッファ・モードなら True Color で表示できます。ただし、[**Color Recovery**] 設定が Options パネルで有効になっている場合は、12 ビット・カラー、ダブルバッファ・モードの設定であれば、解像度 1600 x 1200 ドットの表示が可能です。このように、HP Color Recovery では True Color に近い表示が実現できます。

ドライバの詳細設定



[Application]
グループ・ボックス

選択項目	説明
Max Compatibility	ご使用のアプリケーションがリストにない場合、この項目を選択します。*Max Compatibility に設定すると、Microsoft の仕様とは対照に、ダブルバッファ・ウィンドウで OpenGL と Windows GDI レンダリングが混在するアプリケーションとの最大の互換性が提供されます。
Max Performance	*Max Performance に設定すると、グラフィックスの処理速度が優先されるようになります。この設定にすると、多くのアプリケーションで画像に視覚的異常が発生する可能性があります。
Custom	*Custom は、ユーザが手動で 1 箇所以上の設定を変更すると有効になります。 詳しくは、「ドライバのカスタム設定」を参照してください。
Application name	使用しているアプリケーションを選択します (例; SoftImage、Solidworks)。

注記

*の文字が頭についている項目はシステム管理者でも削除することはできません。

[Settings]
グループ・ボックス

オプション	説明
No Tearing	[No tearing] にチェックすると、垂直方向のリフレッシュの最中にレンダリングしたときに発生するティアリング・エフェクトを防止できます。このオプションを有効にすると、垂直方向のリフレッシュが終わるまでレンダリングが行われないため、パフォーマンスが低下する可能性があります。ウィンドウのサイズが広い場合は、パフォーマンスが低下する可能性が特に高くなります。
Fast Buffer Swaps	[Fast buffer swaps] にチェックすると、HP のマルチ・バッファ・ハードウェアが利用できます。このハードウェアは、高速スワップが可能なフロント・バッファとバック・バッファの物理バッファを有しています。一部のアプリケーションと互換性を保つため、このオプションはオフにして、そのかわりにバック・バッファをフロント・バッファにコピーすることもできます。

オプション	説明
Multi Buffer GDI	<p>このオプションにチェックすると、GDI(NT Graphics Device Interface)により、フロント・バッファとバック・バッファの両方の物理バッファに書き込みが行われます。この機能はOpenGLのウィンドウ内にGDIを使用して描画する場合に有効です。</p> <p>ただし、このオプションは2Dのベンチマーク・テストを行うときには、チェックしないでください。</p>
Quad Strips to Tri Strips	<p>OpenGL 標準に準拠していないアプリケーションでは、非二次元のクアド・ストラップを作成するため、このドライバでは正しくレンダリングが行われない可能性があります。このオプションにチェックすると、クアド・ストラップがトライアングル・ストラップに変換されるため、形状が正しくレンダリングされます。</p>
Color Recovery	<p>Color RecoveryはHPの特許技術を使用しており、VISUALIZE ボード独自の機能です。これにより、OpenGL コンテキストで8ビットまたは12ビットのソースから読み込んだイメージが、8ビット・ディザリングのように不鮮明になったり、パターン・エフェクトがかかったりせずに、True Colorに近いクオリティで生成されます。</p>
Stereo Sync Enabled	<p>このオプションにチェックすると、ビデオ出力ポートでステレオ・タイミングが有効になり、ステレオ・ピクセル・フォーマットがアプリケーションで使用可能になります。ただし、ステレオ・タイミングはTrue Colorで解像度1600 x 1200以下の画面設定でのみサポートされます。また、ステレオ効果はリフレッシュ・レートが高い(例; 120 Hz)ほど大きくなります。ただし、ステレオ効果は、適切なステレオグラフィック・グラスやヘッドフォンを使用した場合のみ効果を見ることができます。</p>
NOOP Texture Mapping	<p>このオプションにチェックすると、テクスチャ・マッピングがNOOP (NO OPeration)になります。アプリケーションから送られたすべてのテクスチャ・コマンドは無視されます。</p> <p>テクスチャ・モジュールがインストールされていない場合は、このオプションにチェックすると、ボードのパフォーマンスについて、テクスチャ・モジュールがインストールされた場合をシミュレートできるため便利です。ただし、視覚的な効果はありません。また、テクスチャ・モジュールを使用した場合に得られる実際のハードウェア・アクセラレーションは、このシミュレーションによるパフォーマンスよりもやや遅くなります。</p>

Administrator パネル

[Administrator] パネルは、ユーザに管理者特権のある場合のみ使用できます。管理者は、このパネルでユーザが[Gamma Correction] パネルと[Options] パネルにアクセスしたり、HP VISUALIZE fx6のカスタム設定を変更、保存する許可を与えることができます。



Gamma Correction パネル

[Gamma Correction]パネルはディスプレイの蛍光体明度に対する非線形の補正に使用します。また、アンチエイリアシング処理を施した線や影付のグラフィック・イメージ、ガンマ補正をしていないスキャナ取りした写真イメージなどの表示改善に使用することもできます。

ドライバのカスタム設定

[Options]パネルでは、HP VISUALIZE fx6のドライバ設定をカスタマイズすることができます。これらの設定は[Application]グループ・ボックスに表示されます。

カスタマイズしたプロファイルを作成する方法は次のとおりです。

- 1 任意のオプションを[Settings]グループ・ボックスで設定します。[Application]グループ・ボックスでは*Customが選択されます。
- 2 [Save As]ボタンをクリックして、現在の設定を保存します。プロファイル名の入力を求めるプロンプトが表示されます。
- 3 [Save Configuration]ダイアログ・ボックスに任意の設定名を入力します。この名前は[Application]グループ・ボックスに表示されます。

[Save As] ボタン

現在の*Custom設定にユーザ独自の設定として名前をつけて保存できます。

[Delete] ボタン

カスタム設定を削除できます。

ステレオ・ビジョン

ステレオ・モードにすると、画面イメージが連続したリフレッシュ・サイクルで左右交互に切り替わりながら表示されます(つまり、120 Hzのリフレッシュ・レートならば、左右のイメージがそれぞれ60/秒ずつ表示されます)。ステレオ・モードは Windows NT の [画面のプロパティ] の [Options] パネルで [Stereo Sync Enabled] にチェックすると有効になります。

ステレオ・イメージを表示するには、適切なデバイスが必需です。デバイスには、VESA 1.0P に互換しているステレオ・コネクタが装備されている必要があります。

このようなデバイスには通常2枚で一組の液晶レンズが採用されています。レンズは、画面のリフレッシュ・レートと同じレートで左右交互に透過/不透過 が切り替わり、正常な目であれば各イメージが一つに統合されて見えます。その結果、奥行きのあるリアルな画像が表現できます。

HP VISUALIZE fx6 のアップグレード

HP VISUALIZE fx6 グラフィックス・ボードは 32 MB のテクスチャ・モジュール・アクセサリ (パーツ番号 D6795A) を使用してアップグレードできます。

視覚的な現実感を求める環境ではテクスチャ・マッピングが広く使用されており、リアルな 3D イメージをレンダリングするには、テクスチャ・メモリと処理の高速化は不可欠です。

テクスチャ・マッピングには多大なメモリ参照と計算を必要とするため、多くの場合、3D パイプラインで行われる全 CPU 処理タイムの半分以上がこれに費やされてしまいます。

このオプションのテクスチャ・モジュールを使用すると、テクスチャ・マッピングが高速に処理され、テクスチャ・マップのバッファに 32 MB の Synchronous DRAM (SDRAM) が使用できるようになります。このモジュールを取り付けることにより、次のような機能が利用できるようになります。

- デュアル・テクスチャ高速化プロセッサ
- テクスチャ・メモリ専用 32 MB SDRAM - 16 MB のデュアル・バッファとして構成
- ポイント・サンプリングによるバイリニア/トライリニア MIP マッピング
- 3D テクスチャ・マッピング
- シャドウ・テクスチャ・マッピング

これらの機能に加えて、テクスチャ・メモリはオフスクリーン・メモリとして使用でき、オブジェクトの処理中にフレーム・バッファ、またはデプス・バッファの一部を保存、復元する必要のあるアプリケーションを高速化します。

トラブルシューティング

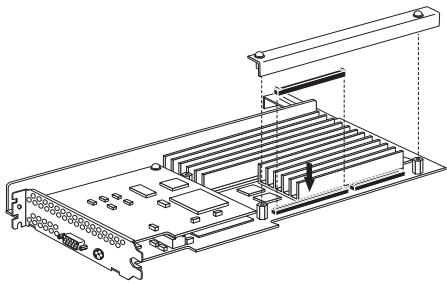
本項では、ご使用のグラフィックス・サブシステム上で発生する可能性のある問題のトラブルシューティングについて説明します。また、グラフィックスのパフォーマンスを改善するためのヒントも記載します。

ビデオに関する問題のトラブルシューティング

起動時に画面が真っ暗で、エラー・メッセージも表示されないとき

解決法	補足説明
コンピュータ本体とディスプレイの電源がオンになっていることを確認します(オンになっていれば、電源ライトが点灯しているはずです)。	これらの点検は習慣としておくとういでしょう。特に、コンピュータを移動させた直後はこうした点検を忘れないでください。
ディスプレイのコントラストと輝度の設定を確認します。	
すべてのケーブルと電源コードが接続されているか確認します。	
電源コンセントが故障していないかどうか確認します。	
可能なら、他のディスプレイとケーブルで試してみます。	
PC ワークステーションのLCD 画面をチェックします。LCD 画面で、'Error - No Video' というメッセージが表示された場合は、HP VISUALIZE fx6 ボードがしっかりと AGP スロットと PCI スロットに挿し込まれているかどうか確認します。	起動時に、HP VISUALIZE fx6 の VGA ドータ・ボードからディスプレイの信号が発信されます。MaxiLife により、VGA ドータ・ボードが正しく動作しているかどうかチェックされます。
LCD 画面でエラーがレポートされなかったときは、可能なら他のグラフィックス・ボードを取り付けてみます。 HP VISUALIZE fx6 以外のボードでも、起動シーケンスは VGA スタンダード・ドライバを使用して表示されるはずです。	ボードを取り替えてみて、起動シーケンスが正しく表示される場合はご使用の HP VISUALIZE fx6 が破損している可能性があります。

VGA モードでは起動するが、画面は依然真っ暗なまま、もしくは、高解像度モードに切り替えると表示がおかしくなってしまうとき

解決法	補足説明
HP VISUALIZE fx6 グラフィックス・ボードを取り外し、再度取り付けてみます。ボードがAGP スロットにしっかりと挿し込まれているか確認します。	MaxiLife ではこのようなエラーは検出できません。MaxiLife がチェックするのはPCI ドータ・ボード上にあるVGAコントローラのみです。
ご使用のディスプレイが、HP VISUALIZE fx6 グラフィックス・ボードを使用して選択した解像度とリフレッシュ・レートをサポートしているか確認します。ご使用のディスプレイが選択した解像度をサポートしていない場合は、VGA モードで起動し、設定を変更してください。	この問題はディスプレイを交換した直後に発生することがあります。
テクスチャ・モジュールがインストールされていない場合は、ターミネータが取り付けられていること、また、しっかりと接続されているか確認します。	 <p>上図はターミネータの場所を示しています。ターミネータがしっかりと接続されていることを確かめるために、ボードの保護パネルを取り外す必要がある場合があります。チェックしたら、元どおり保護パネルを取り付けます(保護パネルの取り外し/取り付けの際にはTorx™ ドライバ、またはサイズの合ったマイナス・ドライバを使用してください)。</p>
診断ツールを実行します。	診断ツールについて詳しくは、22 ページの「診断ツール」を参照してください。
正しいビデオ・ドライバを使用しているか確認します。ビデオ・ドライバのバージョンは[About] パネルに表示されます。	<p>HP VISUALIZE fx4 ドライバでビデオ・ドライバをアップデートしてしまった可能性があります。</p> <p>HP VISUALIZE fx6 ドライバのバージョンは次のような書式になっています。</p> <p>FX.00.01.xx</p> <p>これに対し、HP VISUALIZE fx4 ドライバのバージョンは次のような書式になっています。</p> <p>FX.00.00.xx</p>

コンピュータはVGAモードでも高解像度モードでも起動するが、アプリケーションの使用、画像に視覚的異常が発生するとき

解決法	補足説明
使用しているアプリケーションにドライバが最適化されていない可能性があります。[画面のプロパティ]を開き、[Options]パネルを選択して、適切なアプリケーションを選択します。詳しくは、13ページの「ドライバの基本設定」を参照してください。	アプリケーションを選択すると、ドライバの設定は自動的にそのアプリケーションに最適なパフォーマンスと快適な表示が得られるよう変更されます。
診断ツールを実行します。	診断ツールについて詳しくは、下記の「診断ツール」を参照してください。
次のHP Webサイトにアクセスして、ご使用のアプリケーションのドライバがアップデートされていないか確認します。 http://www.hp.com/go/kayaksupport	HPは機能の組み込み、パフォーマンス強化、また、特定のアプリケーションを実行すると現われる問題修正のために、HP VISUALIZE fx6ドライバのアップデートを頻繁に行います。

診断ツール

プリロードされているソフトウェアの中にはHP VISUALIZE fx6 グラフィックス・ボードのテストを行う診断ツールが含まれています。このツールはPCワークステーションに付属のHP CD-ROMにも収録されています。また、次のHP Webサイトでも入手することができます。

<http://www.hp.com/go/kayaksupport>

診断テストはグラフィックス ASICS、フレーム・バッファ、テクスチャ・モジュール(インストールされている場合)などの詳細なチェックも行います。

警告

診断ツールを実行するにはWindows NTをVGAモードで起動してください。

診断ツールの起動方法は次のとおりです。

- 1 Windows NTをシャットダウンし、VGAモードで再起動します。
現在のディスプレイの設定が有効でないことを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま[OK]をクリックします。[画面のプロパティ]ダイアログ・ボックスが表示されたら、[キャンセル]ボタンをクリックします。
- 2 [スタート]ボタンをクリックします。
- 3 [プログラム]をポイントします。

4 [HP Diagnostics]をポイントします。

5 [HP VISUALIZE fx6 Diagnostics]をクリックします。

診断ツールが表示されます。ボードの各モジュールをテストするため、[Test All]をクリックします。各テストの結果はウィンドウの右側に表示されます。

パフォーマンス上の問題のトラブルシューティング

グラフィックスのパフォーマンスが期待していたほど向上しないとき

解決法	補足説明
次のHP Webサイトにアクセスして、ご使用のアプリケーションのドライバがアップデートされていないか確認します。 http://www.hp.com/go/kayaksupport	HPは機能を組み込み、パフォーマンスをアップさせるため、また、特定のアプリケーションを実行すると現われる問題を修正するために HP VISUALIZE fx6 ドライバのアップデートを頻繁に行います。
使用しているアプリケーションに合わせてドライバが最適化されていない可能性があります。 [画面のプロパティ]を開き、[Options]パネルを選択して、適切なアプリケーションを選択します。	アプリケーションを選択すると、ドライバの設定は自動的にそのアプリケーションに最適なパフォーマンスと快適な表示が得られるよう変更されます。
使用するアプリケーションがテクスチャ・マッピングを適用している場合は、テクスチャ・モジュールをインストールしなければならない場合もあります。 [Options]パネルの[Settings]グループ・ボックスでNOOP オプションを有効にすると、テクスチャ・モジュールをインストールすることによって得られるパフォーマンスをシミュレートできます。 詳しくは、15ページの「[Setting]グループ・ボックス」を参照してください。	テクスチャ・メモリ・モジュールがインストールされていない場合は、テクスチャ・マッピングはソフトウェアを介して実行されます。 この場合、非常に多くの複雑な計算が実行されるため、パフォーマンスは著しく圧迫されます。